

2 全体計画(ランドスケープ計画)

プランは検討中のため変更の可能性があります。

面積表

広場名	面積 (㎡)	主な特徴
1 集まり広場	2,160	観光バス停留・身障者要駐車場3台
2 公園センター	2,498	観光・カフェ・市民活動機能を集約
3 もりの参道(デッキ)	619	市道からアクセス可能な段々デッキ
4 もりの参道(舗装)	733	公園センターと大橋を繋ぐ道
5 オモテ林1	893	市道からの騒音を遮る
6 市民広場	2,033	多目的な市民活動のスペース
7 もりのテラス	1,412	広瀬川に向かって段々にくだる
8 広瀬川テラス	658	広瀬川へのアクセスの緩衝空間
9 中央広場	7,561	広々とした芝生広場
10 もりの庭園	5,109	御墓林を想起させる庭園
11 もりの回廊	1,809	もりの庭園と中央広場の緩衝帯となる
合計	約 25,487	

15 全体、景観、その他

・大橋からの景観：前景に広瀬川テラス(石垣を際立たせる)、中景に市民広場での活動、その奥にオモテ林1<屋敷林>と建築の折り重なる屋根。

・オモテ林1<屋敷林>を縁取る白い壁に沿って森の参道を設ける。江戸屋敷の庭園に使用されていた石などを使用する。

・オモテ林1(屋敷森)～オモテ林2(もりの庭園)へ、建物と交差して連続する緑は、第2の杜(都市の自然)～第1の森(青葉山の自然)への変化を表現する庭園。

14 もりの庭園(オモテ林2)

建物(回廊)の際は屋内に冬季の陽光を呼び込む水盤(池)とし、広がりのある州浜から次第に密度の高い森へと変化していき、季節ごとの変化を静かに楽しめる空間となる。

14' もりの回廊

桜の小径、中央広場から巽門、復元堀方向へつながる動線となる。

緊急車両、搬入路となる他、広場の芝を傷めずに乗馬などのイベントにも対応。

13 桜の小径

川沿いの散策を楽しめる小径とする。

石垣や既存の果樹などを保存・保護しつつ、桜以外の樹種も検討する。

12 中央広場

周囲に微地形を持った広大な広場で子どもから大人まで自由な発想で利用できる。

森の回廊との境界部分に緑陰部分と滞留空間(ベンチ・パーゴラなど)を設け、広場を見守れるスペースをつくる。

もりのテラスと一体活用でイベントなどにも対応。

11 もりのテラス

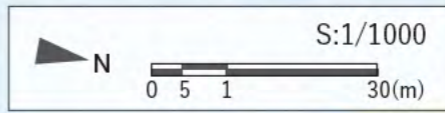
公園センターの建物と広瀬川をつなぐ多目的なテラス。

公園センターの建物と広瀬川をつなぐ多目的なテラス。緑陰と滞留空間(ベンチ・パーゴラなど)、川に近い部分に「桜のテラス」を設け、電源等を設置。花見イベントなどの核となる。

10 広瀬川テラス

大橋からの景観構成において前景をなす重要な空間。広瀬川の石垣が際立つデザインとする

滞留空間(ベンチ・パーゴラなど)を設置し、大橋を渡って最初のもてなし空間とする。



7 集まり広場、もりのエントランス

武家屋敷の前庭を意識したスケールで公園センター建築へのメインアプローチとなる。

江戸屋敷の庭石などを活用する。

団体バス乗降場、集合場所、身障者用駐車場、駐輪場など、機能的なアプローチをコンパクトに集約し、大橋からの景観を守る。

新 もりの参道

市道青葉山線に沿って様々なアクセスを受け止めるアプローチ空間。森のエントランスへむけて軸線を通し、歴史文化的な佇まいをつくる。

イベント時には屋台など並べた賑わいのある使い方も可能。

8 オモテ林1

仙台北下の屋敷林(イグネ)をイメージした庭園。公園センターを訪れた人々を迎える庭園として、また建築の屋根並みとともに武家屋敷の佇まいをイメージさせる樹種構成とする。

城下町の屋敷、追廻住宅の記憶を受け継ぎ、実のなる樹種なども積極的に使用する。

9 もりの市民広場

50m×40mの芝生広場。多様な市民活動やイベントに利用しやすい広場。

もりの参道と隣接し、一体利用により活用の幅が広がる。



大橋からの景観